

梅花短大 家本 修 滋賀女短大 ○成田巳代子

大谷女短大 小林昭子 樟蔭東女短大 山本倫子 鳴門教育大 広瀬月江

目的：衣服や色の嗜好の形成に関して、母子間にどのような関係が存在し、影響を与えるのであろうか。母親の行動特性を把握し、児童の嗜好性や嗜好の関係を明らかにするために、本報では母親自身の生活行動特性と衣服や色の嗜好性との関係について報告する。

方法：児童（5・6年生）とその母親を対象に色彩の嗜好性や生活行動等についての調査を実施した。調査は、親子に同一のナンバーの用紙を用いて分析時に組に出来るように設定した。何れも質問紙調査法で、母親は託送調査である。実施時期：昭和62年11月中旬～下旬。調査数：292組（セット回収率81.5%）。調査地域：大阪府堺市。調査対象校：大阪府堺市立H小学校。主たる質問項目は、生活行動の特性や色の嗜好、衣服の嗜好等につての項目である。集計分析は、分散分析、クロス分析、数量化Ⅱ類等である。

結果：①「子供の性別」に関して、男子を持った母親は「子供会など世話を引き受ける」方がやや多く（ $P<0.10$ ）、女子を持った母親は「入学式や卒業式に着て行くか」を友人に相談して決めるより、一人で決める方がやや多く認められた（ $P<0.10$ ）。②「入学式や卒業式に着て行くか」と関係する項目を求めると、「母親自身が着たい服の色」が認められる。これは、「好きな色」より関係があると考えられ、着用行動に消極的あるいは慎重な性格が表れているものと推察される。また、昨年報告した色と性格との関係と整合性が認められる。③「年齢」とは、「好きな服の感じ」・「子供会の世話」「何を着て行くかの相談について」「待ち合わせのタイプ」と関係が認められる。これらから、母親の生活行動の特性、特に外的な関係が子供との間に持ち込まれていることが示唆される。